



福島県立梁川高等学校

平成 30 年 9 月 14 日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 30

■ 晴れくもる樹の相形や秋の空 (飯田蛇笏)

9月8日は二十四節気の一つ「白露」でした。大気が冷えてきて露を結ぶ頃とされています。梁川でもようやく残暑が引き、朝夕は涼しさを感じる季節になりました。今月は秋雨前線が停滞し曇りや雨の日が続いていましたが、昨日と今日はようやく太陽が顔を出し、雲間からは青空も見えています。正午ごろは久しぶりに気温が上がり、夏の名残を感じるくらいでした。このように秋の天候は変わりやすく、晴れ曇りを交互に繰り返します。天気の変化に合わせて校舎を囲む木々もその表情や形を変えているようです。ここ鶴ヶ岡の高台にも秋がやって来ました。秋は生徒たちにとって過ごしやすい季節ですので、学習、部活動、学校行事に全力で取り組んで欲しいと思います。



■ 青雲の像に想いを寄せて～昭和33年度卒定時制4年生12名の青春～

生徒昇降口に向かって左側に「青雲の像」が建っています。この像は今から60年前の昭和33年9月に制作が開始されました。制作者は当時の定時制の4年生12名。美術の授業における塑像の共同制作でした。生徒たちはグラウンド付近からの粘土採取に始まり、粘土像の制作、粘土像からの型取り作業、型へのセメントの流し込み、鑿を使ったひな型こわし、ビニペイント塗装など、一連の作業を経て、翌34年2月に像を完成させました。この像に込められた生徒たちの想いは、「情熱にあふれた、若く逞しい『質実剛健』な本校生のシンボルとしての青年像」であり、モデルは定時制普通科4年生のY君であったと『創立七十周年記念誌』は伝えています。生徒たちは様々な困難を克服し像を完成させましたが、彼らを突き動かしたのは何だったのでしょうか。一つ目は純真さと情熱です。像の制作に参加したH君は後に振り返って次のように語っています。「私たち12名はその純真さから『二十四の瞳』と言い合って、この制作に情熱を燃やしました。」二つ目は自分たちが生きた証を母校に残したいと言う強い願いです。像の制作を指導した菅野忠良先生は「梁川高校新聞」第28号に『塑像「青雲の像」の制作を顧みて』を寄稿し、次のように述べています。「是非卒業記念として校内のどこかに造立したい意欲が生徒達の間

にみなぎった。」
私は「青雲」の言葉の響きに惹かれ、校舎巡回中にたびたびこの像の下に足を運んでいます。そもそも「青雲」とは、雲の上の青い空を意味し、転じて高官など地位や身分が高い人を指す言葉です。「青雲の志」の表現で『徳を磨いて立派な人物になろうとする心』『功名を立て立身出世しようとする心』を表すこともあります。卒業を間近に控えた12名の生徒たちは、ひとかどの人物になり自分の能力を世の中で発揮したいという願いを持ち、将来の自分に想いを馳せていたのではないのでしょうか。前述の菅野先生は寄稿文において、「青雲の像」が完成した時の生徒たちの様子を次のように記しています。「九月より二月まで約半年に亘っての努力が遂に実を結び、青雲の像としてこの鶴ヶ岡より無限の理想郷を凝縮している姿に、一同は放心したかのようにただ像を仰ぎ見るばかりであった。」生徒諸君には「青雲の像」制作に込められた先輩方の願いを心に刻み、自分のよき将来を目指して学校生活を送って欲しいと思います。



漢字の木
が育って
います。

校舎3階の廊下に「漢字の木」が育っています。これは1年生が国語総合の授業で学習した漢字をカードに書き込み、部首ごとに伸びた枝に貼り付けたものです。カードに記入された漢字には、音読み、訓読み、用例等の情報も含まれています。見られる者が漢字を多面的に学べるようになっていきます。これからどのような漢字の葉っぱが増えるのか楽しみです。「漢字の木」が緑の葉っぱを一杯つけ、すくすくと育つことを期待しています。



就職面接指導が行われました

8月27日から9月7日まで、応募先の決定した就職希望者に対して、面接指導が行われました。就職試験において、面接は企業が応募者の人柄、志望動機、就労意欲、協調性などを確認する重要な選考方法の一つです。9月16日からいよいよ就職試験が始まります。試験に臨む生徒諸君には、これまで積み重ねてきた取組を信じ、日頃の学習の成果を十分に発揮し、内定を勝ち取って欲しいと思います。学校として生徒全員の進路が決定するまで、きめ細かな指導と支援を行っていきます。

真剣に面接指導を受ける女子生徒



立会演説会と生徒会役員選挙が行われました

9月13日、立会演説会ならびに生徒会役員選挙が行われました。私からは生徒会役員選挙は自分たちのリーダーを決める大切な活動であることから、立候補者の演説をよく聴き、気持ちのこもった一票を投じることと、立候補者には自分の主張や考えがみんなに伝わるよう、落ち着いて堂々と発表することをお願いしました。その後、立候補者による立会演説と投票が行われ、立候補者全員が信任されました。新しい役員皆さん、おめでとうございます。



新人戦地区大会の結果について

【陸上競技部】

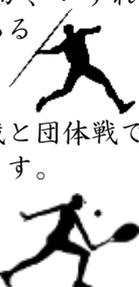
8月25日～27日の3日間にわたり、信夫ヶ丘陸上競技場において行われ、4名の生徒が出場しました。男子では100m、200m、やり投げに、女子では800mに出場しましたが、いずれも予選敗退に終わりましたが、全員が1年生でありこれから伸びる可能性が十分あることから、競技力向上に向けた地道な努力を積み重ねて欲しいと思います。

【ソフトテニス部】

9月1日から3日の3日間にわたり、福島市営庭球場において行われ、男子個人戦と団体戦で県大会出場を決めました。詳細は以下のとおりです。県大会での活躍を期待しています。

個人戦：佐藤・齋藤組ベスト20（県大会出場）、齋藤（航）・高橋組2回戦敗退、
村上・結城組2回戦敗退

団体戦：9位（県大会出場）



連合チームがサヨナラで初勝利！～秋季高校野球大会県北支部予選～

8月25日、県営あづま球場において、秋季高校野球大会県北支部予選会が行われ、本校野球部は川俣高校と連合チームを組み、福島高校と対戦しました。残念ながら1対9で敗れましたが、28日に行われた敗者復活1回戦では福島北高校と対戦し、9回裏に佐藤亜月君がヒットを放ち4対3でサヨナラ勝ちしました。29日に行われた敗者復活2回戦では福島工業高校と対戦し、0対4で敗れましたが、連合チームが新チームになって初めて公式戦で勝利を経験したことは大きな収穫でした。梁高球児の今後の活躍が楽しみです。

「ちえすと、気張れ」（「西郷どん」の西田敏行さん風に）



「伊達ももの里マラソン大会」で渡邊泰幸君が好成績を収めました

8月26日、第58回「伊達ももの里マラソン大会」が行われました。保原中央交流館をスタート・ゴールとし、県内外から参加した約6千名のランナーたちは、市街地、住宅地、田園、果樹園など変化に富むコースで健脚を競いました。本校から参加した陸上競技部の渡邊泰幸君（3-1）は、高校男子10キロの部で快走をみせ第3位になりました。おめでとうございます。



PTA 情報

9月11日、第3回PTA役員会が行われました。今回は視察研修、朝のあいさつ運動、梁華祭について話し合いがなされました。保護者の皆様には次の点をお願いします。

- ① 視察研修にお誘いあわせの上ご参加ください。
 - ② 梁華祭ではPTAによる模擬店の営業がありますので、ご協力をお願いします。
- ※いずれも案内を別途通知します。

創立百周年記念事業実行委員会より

8月29日、創立百周年記念事業実行委員会役員会・各小委員会が行われ、以下の事項が了承されましたのでお知らせします。

- 校舎の航空写真撮影を依頼する。
- 記念講演、祝賀会は記念式典と同日に行う。
- 記念講演の内容は、村上敏雄（本校S29年卒）ファミリーによるオペラのステージとする。

